

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品の名称 : ミケブロック
 会社名 : 三井化学アグロ株式会社
 住所 : 〒105-7117 東京都港区東新橋1丁目5番2号
 担当部門 : アメニケア営業部
 電話番号 : 03-3573-9761 F A X : 03-3573-9894
 整理番号 : AFL08022Ja_02

2. 組成、成分情報

製品の用途分類 : 防蟻剤
 単一製品・混合物の区別 : 混合物

	濃度	安衛法	PRTR	CAS RN	
一般名:	ジノテフラン	20%	該当しない	該当しない	165252-70-0
	希釈剤	60-70	該当しない	該当しない	収載
	界面活性剤等*	5-15	該当しない	第1種 24	収載
	非晶質シリカ	1-5	該当しない	該当しない	112926-00-8

*直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩を含有する(製品中に1.8%)

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性

人に対する有害な影響 : この細粒及び粉塵は、目、皮膚、呼吸器を刺激する。本製品の有効成分であるジノテフランは、哺乳動物に対する有害性が低い。

環境への影響 : 水生生物に対して有害である。ジノテフランは、害虫駆除に対する高活性物質であり、有用生物類の蚕、ハチに対しても毒性が強いため、環境生物への影響に注意する。

物理的及び化学的危険性 : 本製品は有機物等で希釈された製剤で、可燃物である。通常の取扱いの範囲では、自己反応性、引火、粉塵爆発の恐れはない。

特定の危険有害性 : 高濃度の微粉塵となった場合には、粉塵爆発を起こす恐れがある。大量保管時に高温にさらすと、自己分解反応を起こす可能性がある。熱分解ヒュームは、目、呼吸器を刺激する。

分類の名称(分類基準は日本方式): 分類基準に該当しない

4. 応急措置

吸入した場合:

被災者を直ちに空気の新鮮な場所へ移動する。症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合:

汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぐ。付着した製品を拭き取り、水又は微温湯で洗い流しながら石

鹼を使って良く洗い落とす。外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。

眼に入った場合:

直ちに清浄な水で洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。異物感が目に残るようであれば、速やかに眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合:

水で口の中を洗浄し、コップ 1、2 杯の水又は牛乳を飲ませて、直ちに医師の手当てを受ける。可能であれば、指を咽喉に差し込んで吐き出させる。被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。毛布などで保温して安静に保つ。

5. 火災時の措置

消火剤 : 棒状水、霧状水、泡、粉末、二酸化炭素

火災時の特定危険有害性

: 製品中に N、S を含有しているため、火災時に刺激性、あるいは有毒なヒュームを放出する。

特定の消火方法 : 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。容器、周囲の設備などに散水して冷却する。消火活動は、可能な限り風上から行う。

消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用する。燃焼又は高温により有毒なガス(CO、NO_x、SO_x)が生成するので、呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際は保護具を着用し、接触および粉塵の吸入を避ける。

環境に対する注意事項 : 環境への影響を起ささないよう、河川などに排出しない。

除去方法 : 漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラムなどに回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 取り扱い場所は換気を良くし、その周辺での火気、スパーク、高温物の使用は禁止する。電気機器類は防爆構造の物を用い、静電気対策を行う。吸入、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な保護具を着用する。取り扱い場所の近くには、手洗い、洗眼などの設備を設け、取り扱い後に、手、顔などをよく洗う。

注意事項 : 取り扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取り扱う。みだりに粉塵が発生しないように取り扱う。作業着等に付着した場合は、速やかに着替える。

保管

適切な保管条件 : 直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する。換気の良い冷暗所に保管する。密栓した容器に保管する。酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。

安全な容器包装材料: 金属又は樹脂容器、ポリ内装の紙袋などで、遮光性を有するものを推奨する。大量輸送の場合、導電性ゴム布製フレコンを用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取り扱い場所には、全体換気装置を設置する。密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。

管理濃度 : 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会(2001年度版) : 未設定

ACGIH(2001年度版) : 未設定

<本製品の粉塵成分としては下記の設定がある>

管理濃度 : 2.9mg/m³(遊離珪酸含有率0%の鉱物の粉塵として)

許容濃度

日本産業衛生学会(2001年度版) : 第2種粉塵 吸入性粉塵 1mg/m³、総粉塵 4mg/m³

ACGIH(2001年度版) : TWA 10mg/m³

保護具

- ・ 呼吸器の保護具 : 防塵マスク、送気マスク、空気呼吸器
- ・ 手の保護 : 保護手袋
- ・ 目の保護具 : 保護眼鏡、ゴーグル
- ・ 皮膚及び身体の保護具 : 安全帽、安全靴、保護具

9. 物理的及び化学的性質

製品の外観等

物理的状態 : 個体

形状 : 細粒

色 : 淡青緑色

臭い : わずかな特異臭

pH : 知見なし

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲: 知見なし

引火点 : 知見なし

爆発特性(粉碎微粉の粉塵爆発特性) 粉塵爆発下限界濃度: 130mg/L(22%、湿度58%)¹⁾

嵩比重 : 0.60 ~ 0.70 g/cc¹⁾

溶解性 : 知見なし

<今銘柄に関する情報が少ないため、組成成分の情報を記載する>

<ジノテフラン>

pH : 5.6(1%水溶液、25℃)¹⁾

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

沸点 : 測定不可(分解)¹⁾

融点 : 107.5℃¹⁾

分解温度

発熱開始温度 : 217℃(熱分析試験)¹⁾
115.5℃(ARC法「加速反応熱量計法」)¹⁾

引火点 : 知見なし

発火点 : 350℃¹⁾

爆発特性 : 粉塵爆発下限界濃度: 50mg/L、最小酸素濃度 10%¹⁾

蒸気圧	: <math> < 1.7 \times 10^{-6} \text{ Pa} </math> (30) ¹⁾
密度	: 1.40 g/cm ³ (20) ¹⁾
溶解性	: 水 40g/L (20) ¹⁾ メタノール 57g/L (20) ¹⁾ ヘキサン 9.0 × 10 ⁻⁶ g/L (20) ¹⁾
オクタノール/水分配係数:	-0.549 (25) ¹⁾

<希釈剤>

引火点	: 480) ³⁾
溶解性	: 水に溶解) ³⁾

<界面活性剤等>

pH	: 5.5 ~ 9) ³⁾
比重	: > 1) ³⁾
溶解性	: 水に可溶) ³⁾

<非晶質シリカ>

物理的状态が变化する特定の温度/温度範囲

沸点	: 2,230) ²⁾
融点	: 1,610) ²⁾
引火点	: 不燃性
比重	: 1.95 ~ 2.00) ³⁾
溶解性	: 水に不溶、フッ酸、か性ソーダに可溶) ³⁾

10. 安定性及び反応性

安定性	: 安定性: 通常の保管条件下では安定) ¹⁾ 150 で安定 (<ジノテフラン> DSC、TGA 法) ¹⁾
反応性	: この製剤は消防法の自己反応性物質に該当しない) ¹⁾ 酸化剤等の強酸化性物質と反応する
避けるべき条件	: 加熱、強酸化性物質との混合や接触
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、窒素酸化物、硫酸酸化物、結晶性シリカ

11. 有害性情報

急性毒性	: ラット (雄、雌) 経口 LD50 > 5,000 mg/kg) ¹⁾ マウス (雄、雌) 経口 LD50 > 5,000 mg/kg) ¹⁾ ラット (雄、雌) 経皮 LD50 > 2,000 mg/kg) ¹⁾
局所効果	: 眼刺激性: ウサギ 軽度) ¹⁾ 皮膚刺激性: ウサギ なし) ¹⁾
感作性	: モルモット なし) ¹⁾

<成分の有害性情報>

<ジノテフラン>

発がん性	: なし) ¹⁾
変異原性	: Ames 試験陰性) ¹⁾ 染色体異常試験陰性) ¹⁾ DNA 損傷陰性) ¹⁾
催奇形性	: なし) ¹⁾
生殖毒性	: なし) ¹⁾

12. 環境影響情報	
生態毒性	
魚毒性	: コイ LC50 (96H) 192 ppm ¹⁾ ニジマス LC50 (96H) 115 ppm ¹⁾
その他	: ミジンコ LC50(24H) 1,750 ppm ¹⁾ 藻類(<i>Selenastrum capricornutum</i>) EbC50 (0 ~ 72H) 45.0 ppm ¹⁾ 蚕に対して毒性がある ¹⁾ ハチ類に対して強い毒性がある ¹⁾
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	: 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。 焼却処理を行う場合 1) 可燃性溶剤に溶解又は混合し、アフターバーナー及びスクラバー付きインシネレーターの中で焼却する。 2) 焼却室の温度は完全に分解させるために、800 以上に保持する。 3) 焼却時に有毒ガス(窒素酸化物、硫黄酸化物)が発生するので、焼却排ガスの処理対策を講ずる。
汚染容器・包装:	空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
14. 輸送上の注意	
国連分類	: 国連定義の危険物に該当しない
輸送の特定及び安全対策及び条件:	容器の破損、漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 直射日光を避ける。
15. 適用法令	
化学物質管理促進法:	施行令第1条別表第1第1種特定化学物質 (24号 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩)
16. その他の情報	
引用文献	: 1) 三井化学データ 2) 化学品安全管理データブック(化学工業日報社、2000) 3) 他社データ(購入原料MSDS)
免責事項	: 記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づき作成されており、新しい知見により改定されることがあります。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取扱の場合は用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。